



### JAL エンジニアリング、整備用連絡車として1人乗り電気自動車を導入

～大阪国際空港で初めて、トヨタ車体の「COMS」を導入～

2018年10月12日

JALグループの航空機整備をにっている、株式会社 JAL エンジニアリング(本社:東京都大田区、代表取締役社長:北田 祐一、以下「JALEC」)は、大阪国際空港(以下、伊丹空港)内で初めて、1人乗り電気自動車「COMS」(コムス)を整備用連絡車として導入いたしました。

空港内では広範囲に航空機が駐機しており、整備士は自動車を使ってオフィス・航空機間を移動します。伊丹空港では、毎日多数の JAL グループ便が運航しており、整備作業のために多くの車両を使用します。従来はバンタイプの車両が主流でしたが、空港内駐車スペースが限られることから、小型車両の導入を模索してきました。

トヨタ車体の「COMS」は「ちょっと おでかけ 街まで スイスイ」をコンセプトに小型で機動性が高く、環境に優しいモビリティであることから、都市部でのカーシェアリングや、短距離移動用として期待される車両です。JALEC では、この「COMS」の機動性を毎日の整備作業に活用します。また、CO2 を排出しない「COMS」を利用することで、環境にも配慮してまいります。

JAL グループは、航空機の更なる品質向上のため、これからもエコファーストを意識しながら、航空機整備のさまざまな業務改革にチャレンジしてまいります。

#### 1人乗り電気自動車「COMS」導入 概要

1. 導入時期  
2018年9月
2. 導入車両  
トヨタ車体株式会社製  
「COMS」(コムス) B・COMタイプ
3. 導入台数  
3台
4. 導入場所  
大阪国際空港エプロン地区
5. 期待される効果
  - ・空港内駐車エリア縮小による作業スペース拡大
  - ・CO2排出ゼロ



1人乗り電気自動車「COMS」

以上